

(1)教育理念・学校教育目標（校長）

	評価項目	評価
①	学校の理念、目的、望ましい学生像が定められているか。	2.8
②	学校における職業教育の目標が明確か。	3.1
③	社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか。	2.6
④	学校の理念、目的、学生像、将来構想等が学生・保護者に周知されているか。	2.6
課題	・社会のニーズへの対応 ・学生、保護者への周知方法 ・保護者への発信が少ない。(同様1) ・行事がうまく保護者に伝わっていないときがある。 ・若い教員の育成 ・将来構想を描いている教職員がほとんどいない。	
対応	・幅広く理解いただくための周知方法 ・保護者へのメールによる情報発信 ・成績票などと一緒に文書を送る。 ・DMでのお知らせ 数年後を見据えた経営を行う 定期的に意識付けを教職員に行う。	

(2)学校運営(事務部)

	評価項目	評価
①	経営方針に沿った事業計画が策定されているか。	3.3
②	運営組織や意志決定機能が明確化され、有効に機能しているか。	3.0
③	人事、給与等に関する規定等は整備されているか。	2.8
④	教務・事務等の分掌組織、意志決定システムが整備されているか。	2.9
⑤	教育活動に関する情報公開が適切にされているか。	3.4
⑥	情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	2.9
⑦	予算・収支計画が有効かつ妥当なものとなっているか。	2.7
⑧	指導力を備えた教員(本務・兼務)の確保に努めているか。	2.7
課題	・伝え方、言い方を考えて発言(発信)することが大切。 ・分掌は明確ですが、その連絡系統があやふやである。 ・事務と教務の境界があやふやである。 ・分掌組織の明確化。(分掌のことは担当が責任を持つ体制をつくる) ・規定が整備されていない。《……どの規定でしょうか?》 ・若手を入れて育てる環境を作る必要がある。 ・良い人材を確保するためのベースアップ ・教職員の一部が意思決定システムに不満を持っており、時折暴走するのはいかがか。	
対応	・指導力があっても、思いやりや気遣いが無い教員にそれをどう伝えていくか。 ・相談、提案したいが、誰にすれば良いのか不明。《……提案内容を担当する分掌の長で、運営会議に出ている先生へ提案、相談する→提案、相談が認められれば、運営会議に提案され、検討することとなる。》 ・主任に相談していても、上まで届いているかが見えないことが多い。《……主任は、その提案を運営会議に提案するかどうかの判断をします。全部が運営会議に提案されるとは限りません》 ・分掌外のことに関わること、弊害が発生することがある。提案することはいいいが、どのように行うかについては担当が決定していく。そのことにアドバイスするのは良いが、あくまでもどのように進めていくかは担当が決めるということを確認して欲しい。提案すればその通りになるというわけではないと思う。その通りにならないからといって不満を言ったり、不機嫌にならないで欲しい。 ・学校の経営を考えるため、規定に当てはまらない。 ・希望者がいれば在校生の中から実習助手として育てていけば良いが、給料が低いのがネックになる。 ・学生増加のためにこ入れ ・ルールを破った者には目に見えるペナルティを科す。	

(3)教育活動・教育環境(教務)

	評価項目	評価
①	学校教育目標・指導要領・学則等に基づいた教育課程が編成されているか。	3.4
②	学科の到達レベルや学習時間の確保は明確か。	3.3
③	実践的職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発が実施されているか。	3.1
④	理・美容部会が機能し、教育活動の改善が図られているか。	3.1
⑤	授業評価の実施・評価体制が図られているか。	3.1
⑥	成績評価、単位認定、進級・卒業の基準は明確か。	3.6
⑦	資格取得に関するカリキュラム、指導体制は整っているか。	3.6
⑧	教員が先端的知識・技能等を習得するための研修等の取組が行われているか。	3.0
⑨	学校行事等、適切に立案され実施されているか。	3.2
⑩	施設・設備は必要性に対応できるよう整備されているか。	3.2
⑪	防災体制は整備されているか。	3.4
⑫	生徒指導の重点(挨拶・マナー・後始末)が適切に実施されている。	2.5
課題	・技術と知識 ・学校行事やコンテストへの参加について ・挨拶 ・挨拶やマナー等は時期にムラがあった。学校生活に慣れてくる6月、長期休み明けに生活がだらしくなりがちな印象だった。 ・授業計画の作り方を理解していない ・挨拶マナー後始末に課題がある。ガム、私語等 ・研修には費用が発生するため、予算の確保が不可欠 ・先端的とはいえない ・核となる部会が機能していない。	
対応	・外部の情報(卒業生、講師の先生との情報)を職員会で共有する。・挨拶が気持ちよく交わせる雰囲気づくり。 ・コンテスト参加者の増加。 ・教員が常に一定のスタンスでいることが大切だと思う。 ・学生の状況に合わせた計画、修得者の学習意欲を満足させる計画を立てていきたい。 ・日頃から声がけする。 ・学生の確保が重要課題であるので、広報活動に理事・評議員にも積極的に告知していただくように依頼する。 ・卒業生へのアンケート ・メーカー等の講習への積極的な参加ができるようなシステムがほしい ・部会が機能するまで管理職が会に参加し助言する。	

(4)学修成果(教務)

	評価項目	評価
①	就職率の向上が図られているか。	3.1
②	資格取得率の向上が図られているか。	3.5
③	退学率の低減が図られているか。	3.6
④	卒業生の勤務状況・評価等把握しているか。	2.5
課題	・近年就職率が下がっている。 ・卒業生の動向を把握していない。 ・離職調査 ・就職内定先が担任以外わからない。 ・本来財産となる卒業生の情報を把握するシステムがない。	
対応	・1年次から就職に対する指導と面談との徹底が必要だと思う。学生の意思に沿いすぎて就職決定が遅れている。 ・卒業生の情報が薄い。 ・卒業生へのアンケート ・就職内定先を年度末に一覧にして示す。 教務主体でシステムを構築し、全体で共有する。	

(5)学生支援

	評価項目	評価
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか。(指導部)	3.4
②	学生相談に関する体制は整備されているか。(指導部)	3.1
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。(事務部)	3.1
④	学生の生活環境への支援は行われているか。(指導部)	3.1
⑤	保護者と適切に連携しているか。(指導部)	3.3
⑥	卒業生への支援体制はあるか。(指導部)	2.5
⑦	高校等との連携による職業教育等の取組状況はどうか。(指導部)	3.0
課題	・卒業生への支援(国家試験不合格者への支援)。 ・支援体制が弱い ・卒業後特に学校からのアクションがない(同窓会) ・担任以外の相談窓口がない。	
対応	卒業生とのコミュニケーションツールがあると良い。 どんな支援ができるか考えたい。 同窓会等のアンケートをとる 相談窓口を整備する。	

(6)広報・募集活動(広報部)

	評価項目	評価
①	広報・募集活動は重点化・効率化が図られ適正に実施されているか。	2.9
②	広報・募集活動を支援する職員体制ができているか。	2.9
③	広報・募集活動では、教育成果が適正に伝えられているか。	3.1
課題	・募集活動 ・体験入学等の準備や片付けなど ・高校生が必要としている情報とこちらが提供しようとしている情報に齟齬がないと良い。 ・広報が孤立している。 ・独断でおこなっている印象を持つことがあります。あらかじめメンバー全員で共有をして欲しい。 ・教育成果が適正に伝えられていない。 ・人材不足 ・学生増 ・担任からの意見も欲しい	
対応	・学校訪問の際、学生の様子、取り組みなど現状を伝える。 ・体験を通して学生との会話を楽しいでも来、数回の体験入学会、OCの参加を促す。 ・WEB媒体をより活用していく ・協力する意思をみな持っているが、拒まれているような気がする。 ・学校、学生の現状を知らないまま広報をしている。もっと広報がオープンになるといい。 ・現場の意見を取り入れ、反映する必要があると思います。良い提案は積極的に導入して欲しい。 ・専門性のある職員の確保 ・ガイダンスの増加、SNSの強化 学校全体で取り組みができるよう 役職者から動機付けする。	

(7)法令等の遵守(教務部)

	評価項目	評価
①	法令・専修学校設置基準・就業規則等の遵守と適正な運営がなされているか。	3.4
②	個人情報の保護対策がとられているか。	3.2
③	自己評価の実施と問題点の改善が行われているか。	2.8
④	自己評価結果を公開しているか。	3.4
課題	・自己評価の公開 《・・・学校の自己評価はHPで公開しています。》 ・問題点の改善が遅い 個人情報の取り扱いがあいまい。 学生と個人的なやりとり(スマホを介して)をしている教職員がいる。 《教職員と学生が携帯番号の共有やラインの交換など、個人的に連絡を取り合うことは禁止しています。将来、若い男性の教員が入ってきたときに、女子学生との間で個人的に連絡を取り合っていたりすると、男女間のトラブルになることが考えられます。そのとき、女性職員は学生と個人的にラインの交換をして良いが、男性職員はだめ、とか、同性の学生との間ならOKということにはなりません。教職員が学生と個人的にやりとりすることは厳禁です。もし、やっていたら懲戒処分の対象となります。》	
対応	評価後、どう改善していくか具体的に提示していく。	

(8)社会・地域貢献(指導部)

	評価項目	評価
①	学校の教育資源や施設を活用した社会・地域貢献を実施しているか。	2.6
②	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか。	3.2
課題	・校外清掃以外の地域貢献 サロン実習室の活用(同様1) 他校が行っているような地域貢献活動やボランティア活動が少ない。	
対応	・地域に密着できるような方法を考える。 ・サロン実習室の積極的な活用。 ・メーカー、業界への実習サロンを貸し出し、講習活動を積極的にやってもらう ・市や団体のイベントに参加し、学校の認知度を上げる。	

令和2年度学校関係者評価委員会報告書

1 日 時 令和2年6月29日(月) 13時～14時35分

2 場 所 SENDAI中央理容美容専門学校 3階会議室

3 出席者 学校関係者評価委員

兼重 康浩、柳澤 邦充、矢子 浩次郎、伊藤 貴章、小島 勝利

本校関係者

横橋 健、品川 真里子、櫻井 江利子

4 審議内容

規程により矢子委員長を議長とし、審議に入った。

①②について横橋校長より資料を基に説明があった。

①令和2年度学校経営方針について

- ・昨年度の退学者は夏休み前に1年生1名のみであった。
- ・毎年実施している学生への学校満足度調査では満足度8割超である。
不足している所を自己評価を元に教職員で検討し、改善に努めている。
- ・地域との連携を深めるため、地域保育所との交流を検討。
学生による地域清掃を実施し、仙台市より感謝状を受けた。清掃や挨拶で地域に認知されてきているのではないかと。

②令和元年度学校評価（自己評価）について

- ・昨年度の課題として、教育活動・教育環境の生徒指導の重点（挨拶・マナー・後始末）が挙げられていたが、教職員の意識が高まっているようで評価が厳しくなっているのかもしれない。
- ・自己評価の実施と問題点の改善が行われているかについては、評価結果を受け各部署で課題を話し合いし、今年度改善に向けて進んでいる。

③学校評価(自己評価)に対して検討・提言

- ・一人一人の学生を大切にするという経営方針の元、学生のことを考え熱心に指導している事が、退学者数の減少に繋がっているのではないかと。
- ・学生による校外清掃が地域住民へのアピールの場となっているのではないかと。
- ・経営者は挨拶が出来る人は即戦力であり、そのような人材を望んでいる。
挨拶する相手は、将来的に雇用主になる人かもしれないという意識を持って挨拶するよう指導してあげるといいのではないかと。
- ・年齢的に挨拶で声を出す恥ずかしさが出る世代かもしれない。学校全体で挨拶をする雰囲気作りに努めてほしい。
- ・社会へ出て、自分の想像と現実とのギャップに戸惑う人もいる。インターンシップを通して社会に出た時に役立つ経験が出来るのではないかと。インターンシップを検討してはどうか。

以上審議し、議長は議事終了の旨を述べ、14時35分に閉会を宣した。